

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年4月27日
<p>出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子 米沢秀敏（RSK 山陽放送記者）</p>		
<p>検証テーマ：お茶の水女子大学付属に刃物、日米首脳会談、武器貿易条約、メーデー 皇太子さまがお忍びで訪問 【特集】10連休に困惑する人々 【特集】ハンセン病家族の叫び</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初の「10連休」</li> <li>・オープニング</li> <li>・お茶の水女子大学附属中学校に刃物</li> <li>・日米首脳会談</li> <li>・武器貿易条約</li> <li>・スリランカで治安部隊と武装グループが衝突</li> <li>・メーデー</li> <li>・イギリスのメガン妃第一子の名前を巡る賭け</li> <li>・皇太子さまがお忍びで訪問</li> <li>・静岡沖で竜巻か</li> <li>・茨城県鹿嶋市で高齢者による交通事故</li> <li>・千葉県八街市の住宅で強盗傷害事件</li> <li>・東京大田区で斧を持った男がパチンコ店内を破壊</li> <li>・【特集】10連休に困惑する人々</li> <li>・【特集】ハンセン病家族の叫び</li> <li>・スポーツ報道</li> </ul>		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープニング：結論→特に問題なし 番組の冒頭で金平キャスターが「この10連休中に内閣の13人の閣僚は海外に出かけるそうです、国際会議、要人との面会などが目的だそうですが、この間推定5億円の経費が税金から支出されます、国民に休めと号令をかけている官僚の皆さんも休まれてはいかがでしょうか。特集もこの連休についてお伝えします。」とコメントしていた。このコメントに当てられた時間は22秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</li> <li>・お茶の水女子大学附属中学校に刃物：結論→特に問題なし 秋篠宮家の長男悠仁さまが通われるお茶の水女子大学附属中学校に昨日工事業者を装った男が侵入したことがわかったとのが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は96秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</li> <li>・日米首脳会談：結論→特に問題なし</li> </ul>		

日米首脳会談について取り上げられた。

橋口記者の「安倍総理はホワイトハウスで2時間に渡りトランプ大統領と対談しました。終了後安倍総理は北朝鮮の非核化について相当突っ込んだやり取りをしたと明かした上で、拉致問題の解決に向けた日朝首脳会談の実現にもトランプ大統領から全面協力の約束を取り付けたと成果を強調しました。また、夜にはメラニア婦人の誕生日を祝う夕食会が開かれ昭恵夫人からはお茶と急須、湯呑のセットをプレゼント、友好ムードを全面的にアピールしました。ただ、そのトランプ大統領、首脳会談の本丸の議題である日米の物品貿易交渉についてはアメリカの農産品に対する関税を一日も早くなくしてほしい、などと強く迫った他、5月にも協定を結べるかもしれない、と早期の合意を求めました。」という報告が取り上げられていた他、安倍総理の「ともにウィンウィンとなる交渉を進めていきましょう、そして必ずそういう結論をだすことができるのではないかと、その方向に向かって交渉を進めていきましょうということをお願いしたところでもあります。」というコメントが取り上げられた。

このトピックに当てられた時間は110秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・武器貿易条約：結論→特に問題なし

トランプ大統領は銃や戦車などの通常兵器の取引を規制する武器貿易条約について署名を撤回すると発表したとのことについて報じられた。このトピックに当てられた時間は69秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・メーデー：結論→特に問題なし

東京代々木公園では90回目となるメーデー中央大会が開かれ連合の発表でおよそ37000人が参加したこと、連合の神津里季生会長は今年から働き方改革関連法が施行されたことを踏まえ「労働時間を削減し賃金をもっと上げていかないといけない」などと訴えたとのこと、政府からは根本厚生労働大臣が招かれ「厚労省としても違法な長時間労働など不適切な働き方が行われている企業に対する監督を行う」などと述べたとのことなどが伝えられた。また神津里季生会長の「長時間労働の是正も36協定も、同一労働同一賃金も、労使関係がないとだめじゃないですか、世の中に我々大いに訴えていかなければいけないと思います。」という発言のシーンも取り上げられていた。このコメントに当てられた時間は56秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

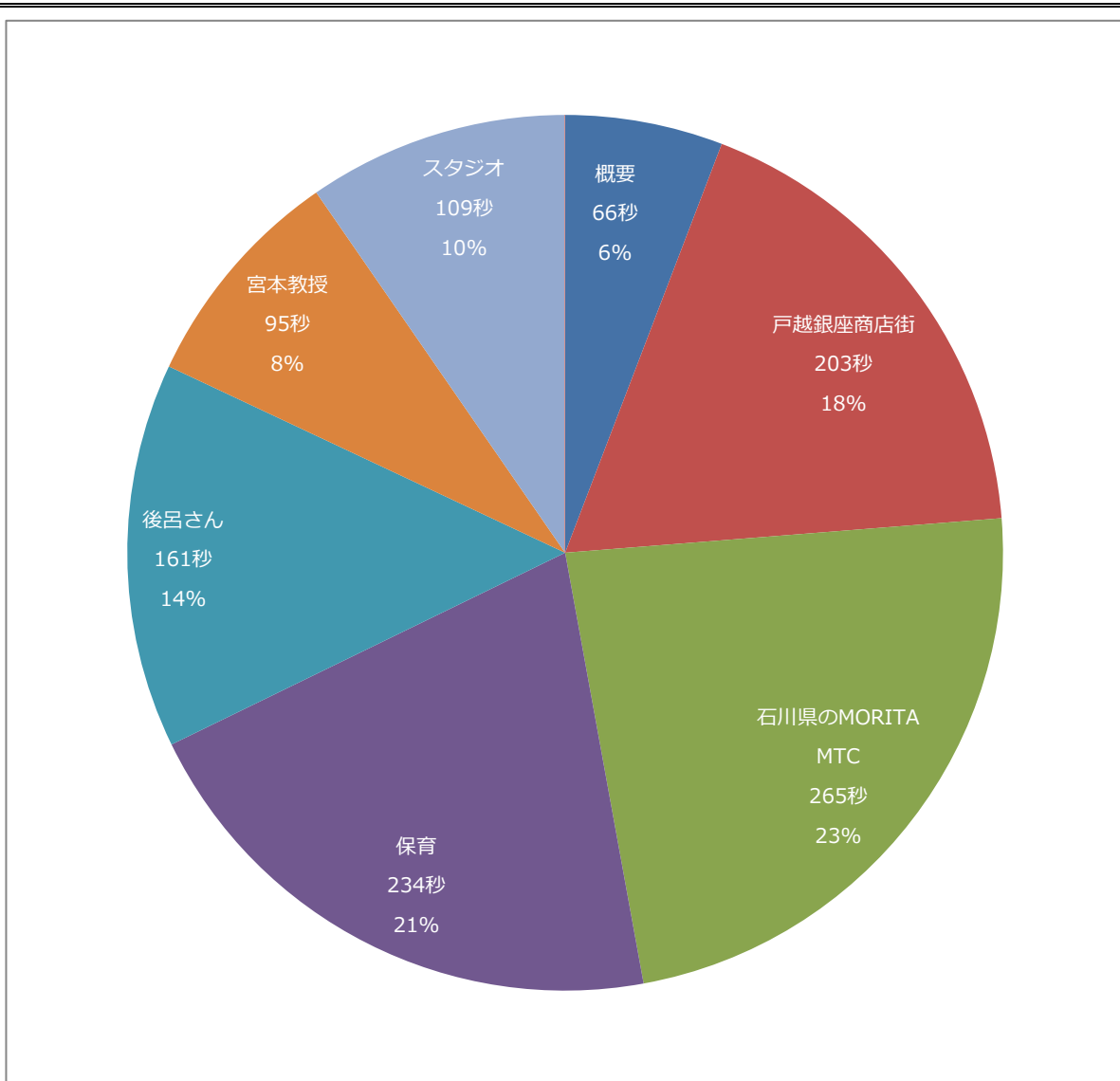
・皇太子さまがお忍びで訪問：結論→特に問題なし

午後一時半前に皇太子さまは東京都豊島区の学習院大学をお忍びで訪問されたこと、学習院大学では三笠宮家の彬子さまが明治時代の宮廷文化を彩った美術品などを紹介するシンポジウムで公演され、皇太子さまが耳を傾けられたとことが報じられた。このコメントに当てられた時間は34秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】10連休に困惑する人々：結論→特に問題なし

10連休に困惑する人々について特集されていた。概要の紹介、戸越銀座商店街、石川県の企業「MORITA MTC」、保育関係、非正規で働く後呂さんそれぞれの焦点の当てられた場面、10連休の経済効果を試算した宮本教授へのインタビュー、VTRを承けてのスタジオでのやり取りに大別された。

この特集に当てられた時間は秒で時間配分及び比率は以下の通りであった。



VTR ではそれぞれ以下に朱記したように取り上げられていた。

[戸越銀座商店街]

ナレ「前例のない10連休を目前に控えた東京品川区の戸越銀座商店街。町の人に聞いてみると、」

膳場「連休中はお店は開けてらっしゃいますか？」

すし店「ずっと開けてますからね」

膳場「ずっと？」

すし店「はい」

膳場「10日間ずっとですか？」

すし店「はいずっと。10日もあると、やっぱりがくーっと祝日でもバーンと落ちるときはやっぱりあるんですよ。だからこの私がやってきた中で一番読みづらい10連休」

膳場「明日から、連休ですけれども、連休中の営業ってどうなされますか？」

クリーニング店「こういうクリーニング業界っていうのは、一番の繁忙期じゃないですか。衣替えをして、10日間も休んだら、食っていけないもんね。(月の)3分の1休むってありえない。」

膳場「すみません。こんにちは」

不動産店「よそ様がお休みだと、うちの手持ちの物件しかご紹介できないわけですよ。で、ご案内しても、あの

管理会社がお休みとかだと、ご案内も出来ないですから、」

膳場「10連休というのは、歓迎されますか？それともまああまりって感じですか？」

不動産店「そんな感じなんで、どっちでもいいですね。うちらはそうです」

ナレ「生花店のショーケースには、連休に備え、花がぎっしりと並んでいた。」

生花店「市場が休みになってしまうので、大量に仕入れたがどっと来て、もう朝からてんやわんやで、今ユリを全部出したところですよ。」

膳場「いつも、こんなにみっしりはしないですか？」

生花店「こんなの初めてです。びっくりしました」

ナレ「世論調査によると、今回の10連休をうれしいと答えた人は、36.5%。逆にうれしくないと答えた人は、41%に上った。また生命保険会社が行ったアンケート調査では、ゴールデンウィークを、自宅でゆっくり過ごすという人が、全体の75%近くを占め、その後、国内旅行、帰省と続いた。」

膳場「10連休のご予定ってどうですか？」

会社員男性「全く、その特に予定はないので、もう行き当たりばったり。起きたらまあどこ行くみたいな。」

主婦「子供が楽しいのはいいですけど、主婦に休みは無いので、やっと生活のリズムに新学期になって慣れてきたのに、ここで休みが入ってしまうと、崩れてしまうので、ここまで長い必要はないかなと。」

ナレ「実際に、10日間休める人は、全体のおよそ3割とも言われている。」

膳場「10連休って今までないですよ？」

塗装業の男性「ないですね。あのうちはあの塗装業なんで、職人がね、サラリーマンじゃないんで、日給なんで、困っちゃいますね。サラリーマンの方はね、月給だから、安心して休めるんだと思うんですけどね、」

"塗装業の男性その2「職人って日割りだから、日割り、だから、20日働くのか、25日働くのか、」

膳場「変わっちゃいますもんね。10日間休みてなると確かにすごく変わりますね」

塗装業の男性その2「変わりますね。」 "

[石川県の MORITA MTC]

ナレ「前例のない10連休。すべてを休みにできない企業も多い。石川県の板金加工業、MORITA MTC。半導体の製造装置の外装カバーなどを作っているこの会社では、10連休の中盤4月30日から、5月2日までの3日間、社員全員が出勤することを決めた。」

森田義明社長「で、こちら、まさに、明日出荷しなければいけない品物が5分くらい前にできましたよね。はい。これも半導体の機械の装置の外観のカバーですね。」

ナレ「来年、創業60年を迎えるこの会社の従業員は15人。ここ数年、半導体分野からの注文が急増していて、新たな工場が今月半ばに完成したばかりだ。」

ナレ「この連休前後は、通常の3倍ほどの注文が集中したため、新工場への引っ越しもままならないまま、納期に追われている。」

"森田社長「やっぱ、納期だけは絶対私も守りたいので、やっぱ、今日注文もらって、今日ほしいみたいな、」

膳場「えっそんなものもあるんですか？」

森田社長「あります。あります。」 "

ナレ「製品は大小さまざま。機械では、製作が難しいものも多く、人の手による熟練の技術が欠かせない。」

"記者「ご家族の予定の方は大丈夫でした？」

社員男性「それはちょっと、分かってもらえるように言いましたので、ええ、仕事優先でちょっと頑張っていきたいと思います。」 "

"女性社員「全部で 1200 点くらい。ありますか。連休明けがひどくならないような感じで、なんかやっているんですけど、流れ的に。」

森田社長「でも何とかね、できそうやね。」

森田社長「前倒ししないと、ゴールデンウィーク明けがもう、大変なことになりますんで、それも計算しながら、1 か月ほど前から、段取り組んでたんですけど、甘かったですね。思った以上に受注があったのと、予想以上に、皆さんが 10 連休だったもので、10 連休前にどうしても入れてくれ、っていうので、」

ナレ「多くの、企業が、働き方改革を進める中、取引先は軒並み 10 連休となった。3 代目の森田社長は、一部の作業を機械化した他、従業員の有給取得率を 100% に近づけるなど、社内改革を進めてきたが、10 連休にするのは難しいと話す。」

森田社長「中小企業っていうのは、変な話、末端じゃないですけども、一番最初のスタートラインというか、大手の企業さんはやっぱ、そういった守るために外注さんに仕事をいっぱい振ることには、なると思うんですけども、まあうちは小さい会社ですけども、そういったのにもしっかり対応できる会社やと、見せつけたいというか、えーそういった強みを持ってると、えーね、相手にね、あの理解してもらいたいんで、はい。」

ナレ「石川県中小企業団体中央会が加盟企業行ったアンケート調査によると、大型連休で、良い影響が予想されると回答したのは、全体の、およそ 2 割、観光需要の増加による売り上げ増や、消費の増加という理由が多かった。」

ナレ「一方、悪い影響と回答したのは、およそ 4 割、その理由としては、稼働日数が減ることによる、売り上げ減や、残業・休日出勤による人件費増ということが多かった。」

#### [保育]

ナレ「連休中の子育てに頭を悩ませる親も多い。」

"記者「おはようございます。」

荒井 希さん「おはようございます。」

ナレ「長野市に住む荒井望さん。4 歳の娘美桜ちゃんを毎朝来るまで 20 分かけ、保育園まで送り届けるのが日課だ。」

"荒井さん「けっこうあの、甘えん坊なので、着替えとか、もう、全部ママ、ママって感じ」

記者「そうなんですか？」

荒井さん「そうなんです。」

ナレ「市内の接骨院で鍼灸師としてパートタイムで働いている。」

ナレ「夫も同じ職場で働いていて、10 連休中は、夫婦そろっての休みは取れないという。」

荒井さん「年中無休なんで、時間も長く開いているので、お休みはなかなか取れないような状態ですね。」

荒井さん「『3 人で出かけたいなー』とか『パパとママ ずっとお休みでいいのに』っていうようなことも、最近言うので、ちゃんと家族で、出かけたいだろうなーっていう、気持ちにはなりますね。」

ナレ「荒井さんのような共働き世帯にとって、保育の問題は、切実だ。」

ナレ「政府は、連休中に、一時預かりを行う保育施設に対して、補助金を支給することに決め、日曜、祝日の臨時開園を促している。ただ、自治体や施設によって対応は様々だ。中には、保育士を休ませることを優先し、連休中は、施設を開けない自治体もある。」

ナレ「33 の公立の保育施設がある長野市では、30 の施設が休みに入る一方で、こちらの子ども園を含めた 3 か所が、10 連休中の保育の受け皿となるよう市が調整した。」

"園児たち「ただいま」

ナレ「連休中は、他の保育園などに通っている子供も受け入れる。また、施設が休みの職員も応援に駆け付け、子どもたちの保育を担う。」

梶月かがやきこども園竹内のり子園長「今回の 10 連休で、あの、ご利用される方が初めての方っていう方も結構多いので、知らない先生、初めてのところっていうのは、子どもたちに、大きな不安かなっていうふう思うので、より丁寧に、という意味では、十分保育士と関わって、抱っこをしながら、ふれあいということも、見つけていきたいなーというふうに、思います。」

ナレ「4 歳の娘を持つ荒井さん。連休中、開いている施設を複数利用して、10 連休を乗り切る予定だ。周囲では、この連休を使って、旅行などを楽しむ人もいるというが」

荒井さん「正直いいなと思いますけど、まあまあでも、まあほんとに、職業を選んでいるのも、自分自身なので、きっと保育園に行く友達も少ないので、本当に正直なところは、かわいそうかなーとも思ったりしますが、今の状況だと、仕方ないですし、」

〔後呂さん〕

ナレ「10 連休の間、日給や時給で働く人の中には、休みになることで収入が減り、経済的な不安を抱えるケースも、多い。」

後呂良子さん「土日、休みの職種の非正規の人たちは、休まなきゃいけない地獄なんですね。働いても地獄、働かなくても地獄ですよ。」

ナレ「こう話すのは、後呂良子さん。」

後呂さん「ありがとうございます。このままでよろしいですか？はいどうもありがとうございました。」

ナレ「これは、後呂さんを取り上げたドキュメンタリー映画だ。地下鉄の駅構内の、売店で、契約社員として働きながら、非正規雇用の待遇改善を求めてきた。後呂さんは時給制で働いている。現在の仕事を 13 年間続けているが、生活は厳しく、貯金もままならない状況だという。」

後呂さん「この 4 月から、1100 円になりました。月収は色々引かれて、手取りは、まあ 14 万足らずぐらいですか、なるべく、食品も詰めますし、まあ恥ずかしい話ですけど、なるべく、あのどっかの外で、トイレもすましてこよとかね、」

ナレ「生活の為、後呂さんは、10 連休も働き続ける。一方で、休日が休みなる店舗に勤める同僚は、10 日間店が閉まるため、収入が減ってしまうという。」

後呂さん「本当はもっと働きたくて、あのその日にちを指定したんだけど、結局 10 連休中、1 日だけ、働けることになったって言ってました。やばばり私ね、あの怖いですよ。もし 10 連休仕事が無くて、あのそのまま生活していたら、」

ナレ「他にも、休み期間中のアルバイトを探す同僚もいるという。10 連休にすることを決めた政府に対し、こう感じている。」

ナレ「その 10 連休にした時に、私たちの時給制の労働者、日給制の労働者は無視してますよね。そのことが一番ショックでした。私たちは労働者として、認められていない。正規の労働者のことしか考えていないじゃないですか。国が、国の祭日として、そういう風にするんだったら、国がその間の生活を保障するべきだと思います。」

〔宮本教授〕

ナレ「全ての人が喜ぶわけではない 10 連休。日本経済にどんな影響があるのか。その経済効果を計算したのが、関西大学の宮本勝弘名誉教授だ。」

宮本名誉教授「国内旅行と海外旅行を合わせると、10 連休では、9279 億円強の消費があると。で、さらに、デパートをやったり、スーパーであったり、そういうところは、やはり平日よりも土曜、日曜、祝日の方がはるか

に売り上げが増えるので、経済効果全体から見ると、実はプラス効果はるかに大きいわけです。私の計算でも分かるように 2 兆円を超えている。」

ナレ「一方で、マイナス面も指摘する。」

宮本名誉教授「非正規の従業員の方々にとっては、かなり大きな経済的なダメージになるというふうに、考えてます。あの時給でほしい私は 1250 円で計算してます。で、これですね、1 日 7 時間働いて、そして 3 日間収入が亡くなったとするとですね、日本全体では、556 億円強の所得が、非正規の方々から奪われるということになるんですね。」

ナレ「4 月 30 日、5 月一日、2 日はもともと平日だったが、5 月 1 日が、新天皇即位の日となり、その前後が休日になった。このため、3 日分の収入が減ってします非正規労働者が多く出るという試算だ。」

ナレ「宮本名誉教授は、マイナス面は経済的な部分だけではないと指摘する。」

宮本名誉教授「昔の時代みたいに、全員が正規社員であればですね、休みを増やそうが何しようがですね、そういう格差を感じる人はいなかった。ところがもう今全労働者の中ですね、3 割とか、4 割とかが非正規になってきているわけですね。そのマイナス面の影響を受ける人が非常に多くなってきているわけですね。精神的な面、心理的な面での僕は、まあ痛みといいますか、それも、伴うと思うんですね。正規の方々には家族揃って、海外旅行にいたり、国内旅行温泉に行ったりというふうなことをされているけど、自分たちはいけない。精神的な格差のその格差の広がりって言いますか、そういうものを痛感される可能性がありますよね。」

VTR を承けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返り広げられていた。

膳場「東京の戸越銀座でお話を伺った限りでは、10 連休フルでお休みという方、そして手放しで、連休を歓迎していらっしゃるという方、とても少なかったですね。で 10 連休にあたって、内閣府が行ったヒアリングでは、収入減少について特段の相談はない。連休中の就業規模はそれほど多くないということなんですけどね、番組で非正規労働者の相談窓口を複数取材しましたところ、まあ大手企業が休むことによって、例えば、ビルの清掃、警備、などの業種を中心に、働きたくても働けないという相談が、多く寄せられていました。政府とのヒアリング結果とのずれを感じましたね。」

日下部「まあ実際に 10 日間休める人っていうのは、3 割程度と言われてはいますがけれども、その 3 割の人たちもやはり、こう、大企業ですとか、一部の官公庁に勤めている人が中心になっているんでしょうね。まあ休日が増えること自体は、私もうれしいですけども、上からこう休日作ったんだから休みなさいといわれるというよりは、働く本人が休みたいときに休める。これが理想ですよ。やっぱり」

金平「あとね、休むっていうことの中身、質も問われていると思うんですけども、スイッチをオンからオフにするオフって一体何なんだろう。今ね、SNS とかスマホとか、情報ツールに僕らがなじがらめになってるでしょ。そういうことを考えると、本当は、まず、スマホを完全に切り続けるとか、それぐらいやないと、休みにならないんじゃないかなって気が僕はするんですけども、あの休みの中身っていうかね、休み方の中身も必要だと痛感しますが、それにしても後呂さんですか？国が 10 連休にした時、正規労働者のことしか、考えていないって言葉はですね、実にこのことの的を得ている言葉だって言う風に思いましたんですけど」

スタジオで膳場キャスターが「東京の戸越銀座でお話を伺った限りでは、10 連休フルでお休みという方、そして手放しで、連休を歓迎していらっしゃるという方、とても少なかったですね。で 10 連休にあたって、内閣府が行ったヒアリングでは、収入減少について特段の相談はない。連休中の就業規模はそれほど多くないということなんですけどね、番組で非正規労働者の相談窓口を複数取材しましたところ、まあ大手企業が休むことによって、例えば、ビルの清掃、警備、などの業種を中心に、働きたくても働けないという相談が、多く寄せられていました。政府とのヒアリング結果とのずれを感じましたね。」とコメントし、政府のヒアリングと TBS の取材の

乖離について言及していたが、確かに戸越銀座に焦点を当てたシーンでは連休を歓迎していたり 10 連休をフルで休める人は少なかったがその多くは自営業者であった。こうした取材はどこで取材するかで結果が大きく変わってくるものであるが、では戸越銀座がどういった土地柄なのか、ということについての説明はいささか不十分であった。また、内閣府のヒアリング手法についてもどういった手法が用いられていたのかということも説明されていなかった。

取材方法やヒアリング方法、取材やヒアリングの対象の特性などにふれずに結果だけを比較して TBS の取材と政府のヒアリングの結果の間のズレを強調するのは、報道の取り上げ方としてあまりフェアではなく、そうした意味で、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」に照らすとやや疑問のある構成であると言える。

・【特集】ハンセン病家族の叫び：結論→特に問題なし

ハンセン病家族について特集されていた。この特集に当てられた時間は 1549 秒だった。

特集では以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

[VTR、1]

ナレ「岡山県に住む原田信子さん。終戦の 6 年後、7 歳の時の体験が今も脳裏に焼き付いている。」

原田さん「部屋を真っ白に本当に、雪降ったみたいに、真っ白になるほど、消毒されたんです。来てたのはね、白い服、白衣みたいのを着た人と、あとなんか黒い服着た人も、1 人か二人だったか、なんかそういう記憶ある。」

ナレ「原田さんの父親はハンセン病だった。国の政策で療養所へ強制収容された。当時ハンセン病の患者が出た家は、徹底的に消毒が行われた。北海道の原田さんの家も例外ではなかった。」

原田さん「もう消毒されたのが、なんでこんなことをするんだろうっていうショックでもうパニックになって、それはずっと一生トラウマみたいに目に浮かんでくるね。」

ナレ「これは、昭和 8 年の映像。いわゆる患者狩りだ。競って患者を見つけ出す無らい県運動が官民一体で行われた。恐ろしい病という誤解が、広く社会に植え付けられた。国のハンセン病療養所の一つ、長島愛生園。多いときで、2000 人以上が収容されていた。ハンセン病は、らい菌により、主に皮膚や、末梢神経が侵される感染症だ。感染力は極めて弱く、戦後まもなく特効薬が登場して、治る病となったが、国は医学的根拠のない隔離政策を改めることは無かった。」

ナレ「家族も過酷な差別と偏見に、苦しめられてきたという。」

原田さん「母は私以上に苦勞したと思うよ。だって、あの働いていた場所をクビになったわけだからね。母はね。風邪ひいたり、具合が悪くなったりすると、収入が無いから、よく、死のう、死のうっていうのは、何回も母も言いましたよ。」

ナレ「学校に行くのが、嫌でたまらなかった。」

原田さん「お前が来るとうつるから、そばへ来るな。学校から帰るときは、ちょっと掃除して帰るじゃないですか。そうすると、一緒にこう、あのバケツなんかで絞ろうとすると、お前、使うと、うつるからあの使うなど、そうやって雑巾投げられたりね。そんなことはいっぱいあったね。」

ナレ「患者の強制隔離を定めたら予防法は、平成 8 年に、ようやく廃止。2 年後、隔離政策は人権侵害で、憲法違反だと、元患者たちが国を訴えた。」

ナレ「平成、13 年、熊本地裁は、国の責任を認め、国も控訴を断念。謝罪と、名誉の回復が約束された。」

ナレ「しかし、同じように差別を受けてきたハンセン病患者の兄弟や、子供、孫などへの救済救済は無かった。」

ナレ「国の責任を問いたいと、真っ先に原告に名乗り出たのが、原田さんだった。」

原田さん「私の父がこう、病院に入ったころは、らい病って言われて、あの、入ったもんで、その当時やっぱり、



子供だったのでいじめられたし、そういうのを抱えたまんまで、死んでいきたくなかったです。やっぱり、ちょっと、皆さんにも聴いてもらって、あの少し気持ちを楽にして死にたいなって思うようになったんです。もう 72 歳になったので。」

ナレ「3 年前の 2 月、原田さんをはじめ、59 人の家族が、国を提訴。翌月の 2 次提訴と合わせて、原告は 560 人余りとなった。」

ナレ「強制隔離政策によって、家族への偏見や、差別が助長された。家族関係を作れなかったとして、謝罪と賠償を求めてきた。」

ナレ「一方、国は、隔離政策は患者を対象としたものであり、家族ではない。家族の置かれた状況は千差万別で、被害は一様ではない。主張した。」

ナレ「去年、12 月の結審の日には、全国から元患者や支援者が集まった。」

支援者「国が、ハンセン病の病歴者の家族に、被害があるなどということを知ることができなかったなどとうそぶいたわけです。このような国の許しがたい主張は、粉碎されるべく、全力を尽くしてきましたし、」

ナレ「判決は、6 月 28 日に、言い渡される。」

ナレ「家族の被害は置き去りにされてきた。そう指摘した元患者がいる。1 年前に亡くなった宇佐美治さんだ。家族の壮絶な人生を、仲間との勉強会で、打ち明けていた。」

宇佐美さん「私の叔母が自殺しとるんですわ。私がダメで、娘が原因で娘が結婚する 1 か月前に結納が済んでから、破談になったとって、本当に申し訳ない思いをしています。」

宇佐美さん「うちへあの、父親の納骨をを東本願寺でやった時に、兄嫁が来まして、もうこれで、あんたと実家暮らしの方の縁を切らせてください。そして手紙とか電話なんか一切やめさせてくださいというから、分かりましたと。それだけハンセン病に対する、地域社会と、親族の断絶というの大きいし、また結婚には非常けっこうみんな困ってるんです。これは私一人じゃないと思います。」

ナレ「引き裂かれた家族。その被害は様々だ。在日朝鮮人の黄光男さんは、ハンセン病家族訴訟の、原告団副団長を務めている。家族がハンセン病だったと他人に話せるようになったのは、つい最近だ。」

「なぜ語れなかったのか。恥でないものを肘とするとき、本当の恥となる。やっぱり、恥としか、思えていなかった」

黄さん「それで、やっところさ、語り始めたですね。50 を過ぎてからですね。今 61 歳なんですけどね。」

ナレ「昭和 31 年にとられた家族写真がある。黄さんは 1 歳。この後、両親と 2 人の姉が相次いで療養所に隔離された。黄さんは家族と引き離され、岡山市の育児院に預けられた」

ナレ「去年、12 月、黄さんは、育児院の保母だった岡さんと江口さんに再会した。60 年ぶりだ。初めて見る当時の写真。」

岡さん「前列のつるつる頭の子よ、」

江口さん「保護者の方が面会に来られた時にね、みっくんは私がいった間は来られなかったのね。面会が無かった。それで他の子どもが、面会しているときにすごく寂しそうな顔をして部屋の隅でじっとね、おとなしくしているのがすごく気にかかって。」

”

ナレ「岡山市にある新天地育児院。ここで黄さんは、1 歳から 9 歳までを過ごした。」

黄さん「ここのマリア像はそのままですわ。いろんな思いがたぶんあったやろと思うけれど、だけど、残っているのは、楽しい思いでばっかり。たぶん、親をすごく、こう、待ち望んでいたのかな。」

ナレ「昭和 39 年、ハンセン病治療の効果があがり、一部で療養所を出ることが認められるようになったころ、

母親と姉が、再び一緒に暮らそうと、迎えに来る。ものごころがついてから初めての家族との暮らしだった。」  
黄さん「あの時はもう、なんていうの？有無を言わずだからね。もうあまりにも急変した。閉じ込められたみたい逆に」

ナレ「家で薬を飲む母親に、何の病気かと尋ねたことがある。その時から秘密を背負ったと、黄さんは語る。」  
黄さん「ふたり一組、二人きりしかおらへんのに、誰に聞かれるはずもないのに、母親が急に声を潜めるんですよ。それまで普通にしゃべっていたのが、で、らい病やって言う風に言ったやねん。その声を潜めて。それがね強烈にね、記憶に残ってんですよ。母親はこの病気の名前を人に言ったらだめよなんて説明は一切ないですよ。説明は一切ないけど、そういうしぐさで、いったらあかんでというのを、いうことを思わせるような、まあ気持ちちが、もう、ぐさりと来ましたね。それをこう、なんかずーっと固く誓ったみたいな感じで、誰にも語らないということをおね、」

ナレ「在日朝鮮人であることを隠さずに生きてきた黄さんだが、家族がハンセン病療養所にいたことは、妻にさえしばらく話せなかった。」

"黄さん「これが本物。」

ナレ「家族が隔離された経緯を確かめようとした黄さん。生まれたときに住んでいた大阪府に情報公開を請求した。すると母親の患者台帳にこんな記録が残っていた。」 "

"黄さん「母娘に対し、強力に入所を勧奨。」

黄さん「強力に入所を勧奨って何やって。どんなふうの説得した？言葉として。それが知りたい」 "

ナレ「黄さんの母親は、16年前、マンションから飛び降り、自ら命を絶った。その後父親も、同じく飛び降り自殺をした。」

黄さん「普通だったら、普通の親子関係だったら、そういう不慮の事故みたいなものだから、もう、涙があふれたらと思うんですけど、それが出なかった。呆然と見てた自分がいたんですね。この母親は何と悲しい人生でここで終わったのか。で、それを思い返すと、その時のことを思い返すと、本当の親子関係って実はできていなかったんだなあということを思いなおされたその瞬間だったんですよ。」

ナレ「これは、昭和27年に長島愛生園で撮られた貴重な映像だ。ハンセン病療養所には、かつて保育所が設けられていた。親がハンセン病だったために連れてこられた子供たち。将来感染の恐れがある未感染児童として、監視の対象にされた。」

ナレ「家族訴訟の原告の男性が、収容された当時のことを、語ってくれた。」

男性「一部屋4畳半か、6畳のくらいのところにみんなでおってね。上の妹はですね、この児童棟、宿舎におりますから、私の方に2人そろってね、よう来てました。来てめそめそ泣いてたと思うんです。私ももらい泣きしてですね、泣いた覚えとかあるんですけども、」

ナレ「男性は、昭和22年、父親の隔離に伴い、長島に連れてこられた。妹たちも一緒だった。長島愛生園の保育所は、昭和30年まで設けられ、合わせて242人が、収容された。学校への通学は認められず、勉強は園内で教わった。父親がいた患者地帯と、保育所があった職員地帯は、行き来が制限され、親子が会うこともままならなかった。」

"ナレ「父親の肉声が残っている。」

男性の父親「子供たちは病気ではございませんので、入園と同時に職員地帯にございました保育所にお世話になり、子供たちの苦労を考えますと、どんあ苦しみに耐えなければと、自らを励まして、耐えることができました。」 "

ナレ「腕に残るいくつもの注射の跡。発病予備軍とされた子供たちには、らい菌への反応を見るためとして、定

期的に注射が打たれていた。」

男性「グロテスクな痕でね、直径 5 ミリ、深さ 10 ミリっちゅうのはね、見たら真っ赤でしたよ。皮膚がえぐられて円筒形の。人体実験されたと。我々健康な保育所の子どもをすね、これを治験の対象として、使われておったと。これをどうしても許せません。私は。」

ナレ「このように、ハンセン病の親を持ち、監視の対象とされた未感染児童は、全国にいた。熊本の保育所に収容されていたのは、家族訴訟の原告の一人、奥晴海さんだ。母親のハンセン病がもとで、父親までも隔離され、孤児となった。」

奥さん「ふえーい。あのここら辺にね、あの、分校があつて、奥の方に分校があつて、イチョウの木がこの前まで来た時にあつたんですよ。」

ナレ「保育所の名前は、龍田寮。近隣住民からの反対運動に、さらされていた。」

奥さん「私たちが、あの龍田寮の中におつたら、ね、あの外の方から大きな街宣車みたいので、ワーワーワー何言っているか分からないけど、とにかく私たちが怖い怖いと思う思ったことをとか、」

ナレ「昭和 29 年、龍田寮の子どもたち 4 人が地元の小学校に通うことが認められた。しかし、保護者が強く反発し、通学は拒否された。校門には、こんな張り紙がされた。」

張り紙「一しょうにべんきょうをせぬように、しばらくがっこうをやすみさせう」

当時のビラ「机を並べて、勉強さしてよいでせうか。食事を共にさしてよいでせうか。」

奥さん「普通の一般の子どもたちとね、置いてくれたら、この問題は起こらなかったんじゃないかなど。そう思うし、私たちがだけ、このハンセン病の人の子どもだけをね、一緒にここに置いたがゆえに、この問題は、起こるべきして起こったってことは、これは、まあ親も生涯隔離だったけど、私たちが一瞬にしてこの子供たちだけは、外部の子どもと触れられていないということは、隔離状態に置いたんじゃないかなど。今私は思っていますよ。現実に。」

ナレ「晴美さんは、当時のことを知る女性を訪ねた。龍田寮の寮母だった森三代子さんだ。森さんは龍田寮の子どもたちを必死の思いで守ってきた。」

森元寮母「反対する人たちはねやっぱり、ハンセン病の子どもというだけでもうね、やっぱり、毛嫌いですよ。嫌悪感があるでしょうからね。」

ナレ「通学が拒否された 3 年後、龍田寮は、廃止に追い込まれた。当時 38 人いた子供たちは、親せきや養護施設へと引き取られていったが、その後の苦労を想像すると、森さんは胸が締め付けられる。」

森元寮母「子供たちがみんなそれぞれね、もらわれていくでしょう。辛かったですよ。引き取り手が無いから、龍田寮に入るとるでしょ。ね、誰かが、おっかさんやお父さんが病院に入ったから。誰も見る人がおらんからというのね。いまでも思い出すです。」

ナレ「晴美さんも龍田寮を後にした。その後待っていたのは、遠く離れた島での、厳しい生活だった。」

#### [VTR、2]

ナレ「母親が、ハンセン病だった。奥晴海さん。激しい差別で熊本を追われ、鹿児島県奄美大島に暮らす、親せきに預けられた。8歳のころだ。」

奥さん「もう本当、どん底に落とされた気持ち。なんちゅうのか、ずっとほら、一瞬もう、何か、暗闇にドーンと突き落とされたような感じを、あの時点で一回しましたよ。」

ナレ「奄美大島でも、ハンセン病の子どもと、蔑まれたという。」

奥さん「本当に、迷惑な子がここに来たみたいなき感じになってきたのも、子どもながら顔を見たらわかりましたよ。自分自身が島の言葉もようやくわかってきますがね。そしたら、あーやっぱり、顔が話しているときに、や

「やっぱり、私のことを嫌なあれで言っているんだ何ちゅうことが、全部読み取られて、」

ナレ「貧しかった親せきの家では、働き手として、容赦なく扱われたという。3度の食事のままならず、水やソテツのみで飢えをしのいだ。高熱にうなされてもほったらかし。自分の境遇を、恨むしかなかった。」

奥さん「一番いやなことは、親せきのおばちゃんのとこに、お金借りに行っただけで、あの一あの子たち100円借りるのが精いっぱいだったけど。それ、だけど、行かなければ怒られるので、あの、あとはもうウソを覚えて、行ったけどいかなかったって言って帰ってきたことなんかたくさんありましたよ。この話を人にすると、夢にも思わなかった。」

ナレ「10歳の時、熊本にいた母親が、島のハンセン病療養所に移ってくると、晴美さんは、人目を忍んで、たびたび通った。食事にありつけることが、何よりうれしかったからだ。夏休み春休みになると、寝泊まりして、ここで過ごした。母親に会える喜びもあったが、一方で、ハンセン病嫌う自分もいた。」

奥さん「やっぱり「うつるから寄るな」つって母を嫌った私がいたからだと思う。やっぱり昼間は母の部屋にいて、あの一周囲の人が遊びに来たりするときは、やっぱり人前だからわらっとって見せるけど、やっぱり夜寝るってなった時に、一つの布団の中で寝るときに絶対もう、寄れなかったことがあったから、」

ナレ「6月の判決を前に、晴美さんの思いは、」

奥さん「やっぱり、自分の心の中にね、染みついた傷だけは、一切消えないので、そこだけは国にしっかりと分かってもらいたいと私は思っていますよ。やっぱり納得できない部分が、心の中に何か残っているの、やっぱり、ぬぐえないものがある。そこだけはわかってほしい。」

上記のVTRを承けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

膳場「取材にあたったRSK山陽放送の米澤記者です。あのらい予防法が廃止されたのは、平成8年、ですからもうね、年月がずいぶん経っているのに、いまだに関係者は、こんなに救済されずに、そして、苦しみを抱えていらっしゃるんですね。」

米澤記者「あの、国の強制隔離政策が憲法違反だったと、断罪されてから、まあそれが2001年ですからもう、20年近くになろうとしていますけれども、元患者も家族も、未だに息を潜めて生きているという現実が、あります。今回のこの家族訴訟で原告に、なったために、それまで仲の良かった家庭が、病の偏見から崩壊したという話もつい最近あるんですね。で、まあ過去には家族がハンセン病と分かって、一家が無理心中したという事件もいくつかありました。その患者狩りが家族を追いこんだ。その傷跡は、今も深く残っていると思います。」

日下部「本当に、いわれない差別偏見がね、どうしてこの平成の時代まで、残ってしまったんでしょうね。」

米澤記者「あの行政が、強制隔離政策が明治時代に始まって、戦後治る病となったけど、平成まで放置されましたよね。で、ハンセン病患者に対する断種や堕胎も旧優生保護法の元、平成まで繰り返されてきました。で、そのことがずっと見過ごされてきたという私たち一人一人がこの問題に無関心だったかということだと思いませんか。で、ハンセン病に限らず、あの、あらゆるマイノリティのみなさんが、無知、無関心という社会から、排除されてきたのが平成という時代でした。まもなく訪れる新しい時代に繰り返されてはいけないと思っています。」

金平「米澤さんね、あの司法と行政もね、その見識が問われていますよね。」

米澤記者「はい、まず、司法の責任なんですが、かつてハンセン病患者に対してはですね、療養所という隔離施設の中で裁判を非公開で行っていたという歴史があります。いわゆる特別法廷、で最高裁はこれが差別的な扱いだったとして、3年前に謝罪をしました。そして国や行政がですね、今回の裁判で、今の差別偏見は無視しうる程度でしかないという主張をしているんですね。で、ハンセン病を正しく理解しようという啓発を続けてきた成果だというふうに主張しているんですが、それは国がかつて、患者を根絶やしにしようと、展開した無らい県運動の熱量とは比べ物にならないんですね。なぜこういった訴訟が起きているのか、をしっかりと考えるべきで

すし、6月28日の判決、原告の声に耳を傾けた真摯な判決が期待されています。」

膳場「米澤記者でした以上特集でした」

特に放送法上の問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・【特集】10連休に困惑する人々

宮本名誉教授の「昔の時代みたいに、全員が正規社員であればですね、休みを増やそうが何しようがですね、そういう格差を感じる人はいなかった。ところがもう今全労働者の中ですね、3割とか、4割とかが非正規になってきているわけですね。そのマイナス面の影響を受ける人が非常に多くなっているわけですね。精神的な面、心理的な面での僕は、まあ痛みといたしますか、それも、伴うと思うんですね。正規の方々は家族揃って、海外旅行にいたり、国内旅行温泉に行ったりというふうなことをされているけど、自分たちはいけない。精神的な格差のその格差の広がりって言いますか、そういうものを痛感される可能性がありますよね。」というコメントについては「連休を通じて格差が痛感される」という観点は興味深いものがあつたが、「昔の時代みたいに、全員が正規社員であれば」というフィクションを多くの日本人が信じているのであればいざしれず、日常生活の中で薄々感付いているものが連休を通じて可視化されているというだけのことであれば、それほど精神的な格差が広がるのかは若干疑問に感じた。

・【特集】ハンセン病家族の叫び

スタジオで膳場キャスターが「らい予防法が廃止されたのは、平成8年、ですからもうね、年月がずいぶん経っているのに、いまだに関係者は、こんなに救済されずに、そして、苦しみを抱えていらっしゃるんですね。」とコメントしていたが。年月がもうずいぶんたっている問題で国が賠償するとなると、その財源はどのように調達するのであろうか、非常に気になった。金平キャスターが「あの司法と行政もね、その見識が問われていますよね。」とコメントしていたが、まさにそのとおりで、仮に賠償するとなった場合、その財源をどのように、どの世代から調達するのか、というのも見識の問われるところである。